

学校教育目標		思いやりの心を持ち、主体的に考え行動する生徒の育成		重点目標	お互いを認め合う生徒の育成				
		評価計画		自己評価		学校関係者評価	改善計画		
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	目指す生徒(職員)の姿(成果指標)	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策(案)		
重点目標に 関する 評価	学力向上に向けた授業改善	○ 授業の導入において、見通しをもって学習に取り組ませるために、既習事項や日常の経験をもとにした予想や仮説を出し合う活動を設定する。 ○ 授業の展開において、自分の考えをつくる時間を確保したうえで、課題解決に必要な資料を準備し、ICT等を活用し、生徒同士が互いの考えを交流させ、考えを深める対話活動を設定する。 ○ 授業の終末において、1時間の学習内容を振り返りながら学習の成果や課題を出し合う活動を設定する。 ○ 学力向上プランを定期的に見直し、学力の向上を図る。	○ 授業の「めあて」を通して、課題を解決するための見通しを持つことができる生徒。 【目標】 学習アンケート 3.0以上 (4段階評価) ○ ペアや小グループで自分の考えを説明したり自分と友達のを比較したりして、自分の考えをより良いものにすることができる生徒。 【目標】 学習アンケート 3.0以上 (4段階評価) ○ 「まとめ」を自分の言葉で記述することで、授業で学習したことを明らかにすることができる生徒。 【目標】 学習アンケート 3.0以上 (4段階評価) ○ 学力調査における正答率の向上 【目標】 標準スコア前年比アップ (再編のため単純には比べられないが、指標とする)	3 3 3 3	○ 「めあて」の提示により生徒が見通しをもって、授業に取り組んだ。 ○ 職員室では教材研究・導入の工夫を行う雰囲気醸成されている。 ○ 協働的な学びを推進した結果、友だちの考えを付加し、自分の考えをより良いものにしていった。 △ 話し合い活動が目的化している時が見られた。 ○ 振り返りの推進もしており、まとめを行う機会が増えている。 ○ 「まとめ」の書き方について工夫が見られるようになってきた。(書き出しは「めあて」で…など) ○ 向上ではなかったが、横ばい状態である。	A A A A	・ 学校の自己評価は適切である。 ・ 授業の質を高めることが、子供たちの資質能力の高まりとなり、将来生きて働く力へつながると思う。そのためにも取り組まれている「めあて」という課題を生徒自身が意識した授業を今後も継続されることを期待する。 ・ ペアや小グループにおける交流は生徒のアウトプットを促すことになり、汎用的な知識・技能につながると思う。今後も取組の継続を期待する。 ・ 話し合いや交流では、何について話し合うかの視点が大事である。	・ 生徒が1時間の授業で学んだことを確認するために、振り返りやまとめの持ち方を充実させる。 ・ 成果指標と取組指標の両方から評価を行うよう再考する。 ・ 個に応じた指導を充実させて標準スコアが前年よりも上昇した生徒の割合を指標にするなど指標の再考を行う。 ・ 大牟田市教育委員会研究指定校として、研究のシステムを再考し、個々の教師の力量が高まる授業研究のありかたを協議しながら取り組む。	
	豊かな心の育成	○ 学級活動や学校行事等において、相手意識を持つようにするため、相手の良さを認め合い協力し合う仲間作りのための場面の設定や自己決定のある活動の設定、活動の工夫をする。 ○ 良好な人間関係を育むため、体験活動の工夫や教育相談の充実、交流の場面の設定し、居場所のある支持的学級経営を行う。 ○ 放送読書や図書委員会の活動等とおして、読書習慣の定着を図る。 ○ 学校の職員だけでは指導することのできない「本物のヒト・モノ・コト」に触れる場を設定するとともに、キャリア教育の充実に努める。	○ 学級の仲間を認め、協力して生活することができる生徒。 【目標】 生活アンケート 3.0以上 (4段階評価) ○ 学級や学校で自己有用感を感じている生徒。 【目標】 生活アンケート 3.0以上 (4段階評価) ○ 読書の習慣が身に付いている生徒。 【目標】 図書室の年間貸し出し数 1000冊 ○ 地域人材や外部の専門家等を招聘した授業を実施する職員。 【目標】 地域人材や外部の専門家等を招聘 100人以上	4 4 3 4	○ 重点目標「お互いを認め合う生徒の育成」を掲示しており、生徒にも浸透してきている。 ○ 学校行事の後は、学級活動で振り替える場を設定し、成長を確認することができた。(キャリアアップファイルの活用) ○ 良好な人間関係作りのために、SVSSWによる研修を年間を通して行っている。 ○ 学級担任一人ではなく、学年・学校全体で安心・安全な学級づくりに寄与している。 ○ 月1回放送読書を実施し、本の楽しさを伝えた。 ○ 年間990冊を超える本を借りたクラスがある。 ○ 総合的な学習の時間で、1年生はヒヤリハットマップの作成や福祉体験、2年生は職業講話、3年生では高校説明会と多くの方に来校し、本物に触れ、思いを聞いた。薬物乱用防止教室や情報モラル学習などほかにも多くの方に来校していただいた。	A A A A	・ 学校の自己評価は適切である。 ・ 生徒会活動を大事にされているようで、とても素晴らしいことである。生徒が考え、運営していくという社会参画力の育成にもなるので、今後も継続して取り組んでいただきたい。 ・ 読書もデジタル化されている時代であるが、本を読む、文章を読むということは豊かな心の醸成や学力の向上にもつながると思うので、今後も継続して取り組んでいただきたい。 ・ 読書では競争をさせてはいけないとも耳にするが、小学校の時から、たくさん本に親しませていきたい。	・ 豊かな心の育成に向けて「美点凝視」の考え方にに基づき、生徒に対する称賛の場を増やす。 ・ 対話活動を全教育活動に取り入れる。 ・ 読書活動の質の向上を図るために、生徒の興味を引くコンテンツの発掘を行う。 ・ 図書館の学習センターとしての機能向上を図る。 ・ 学校外の人材を広く招いて、生徒の課題意識に基づいた総合的な学習の学習を進める。 ・ ボランティア活動を推進する。	
		健やかな生活ができる環境づくり	○ 基礎的な体力の向上を図るため、体育の授業や部活動で補強運動や体幹運動を取り入れる。 ○ 教育活動を通して、生徒が多面的・多角的に物事を見ることや合意形成、折り合いを付ける力を育てる場面を設定する。 ○ 成長期の体を考えて、食育の観点から給食委員会の啓発活動を行う。 ○ スマホ・ゲームの自己管理等、生徒が自らの健康や安全・安心の暮らしのために何が必要か考える場面を作る。	○ バランスのよい体力向上に繋がっている生徒。 【目標】 新体力テストデータ前年比アップ (再編のため単純には比べられないが、指標とする) ○ 誰とでも仲良くしようとしている生徒。 【目標】 生活アンケート 4.0以上 (4段階評価) ○ 学校給食を残さず食べている生徒。 【目標】 残食率 3.0%以下 (市内平均4.15) ○ 動画やSNS視聴、ゲーム利用時間が、平日2時間以下の生徒。 【目標】 生活アンケート 3.0以上(4段階評価)	4 3 4 2	○ 再編により切磋琢磨する相手が増え、部活動などで運動する機会が増えている。 ○ 部活動では、短い時間を工夫して、体幹運動等を取り入れている。 ○ 再編により、自分に合う生徒が増えた。 ○ 仲間づくりを積極的にしている。 △ SNSでのトラブル等、教員には見えにくいものが増えてきている。 ○ 給食委員を中心とした準備・片付けのスピードをアップさせたことで、落ち着いて食事ができている。 ○ 残食0運動など給食委員会が行っており、生徒たちも意識している。 ○ 情報モラル学習を随時行っている。 △ 家庭で約半数が平日2時間以上行っている。ゲームの利用は減少し、インターネットやSNS・動画の視聴が増えている。	A A A B	・ 学校の自己評価は適切であるが、一部上方修正すべきである。 ・ 再編による人間関係がどうなるかが一番心配されたことではないかと思う。そのような中、仲間づくりに注力されたことが御木中学校の立ち上がりがうまくいった要因の一つだと感じる。 ・ 動画、SNSに関する項目は十分な取組をされていると感じた。家庭における姿を数値目標としても、家庭の中まで入った指導はできないので、目標の内容を変えられると学校としての役割が明確になると考える。ゲームやSNS等の家庭への啓発を小中連携しながら取り組んでいきたい。	・ 全教育活動において、自己肯定感の向上に向けた指導を教師が意識して行うことができるように職員会等で周知する。 ・ 体力テストの結果に基づき、保健体育科の学習等で継続して取り組む内容を決める。 ・ 食に関する指導を給食委員会を中心に、年間を通じて継続して行う。また、保護者とも協働して食育の推進を行う。 ・ SNSに関わる指導については、専門家の知見をふまえ、随時様々な機会を設定して進める。
			いじめ防止	○ 学級・学年で、行事や委員会・係活動等を活用して「心の絆づくり」「居場所づくり」を進める。→心理的安全性の確保 ○ 生徒の様相観察やアンケート分析、いじめ防止対策委員会での報告によって情報共有を徹底し、ケースごとに対応を進める。	○ 自分の学級は、居心地がいい(安心できる)と感じている生徒。 【目標】 生活アンケート 3.0以上 (4段階評価) ○ いじめ認知の確実な把握および早期発見・早期対応ができる職員。 【目標】 いじめの改善率 100%	4 4	○ 生徒会活動を中心として、心の居場所づくり、絆づくりを行っている。 ○ 再編により中2・中3でも初対面の生徒や中1では4小学校から集まってきた生徒たちをまとめていくため、各学級工夫を凝らしている。 ○ 担任まかせにせず、学年・生徒指導主事・補導主事・管理職など多くの人が関わり解決に向けて取り組んでいる。 ○ 週に1回の生徒指導委員会必ず共有し、現状を確認している。	A A	・ 学校の自己評価は適切である。 ・ いじめ防止に関する取組については、学校が取り組まれているように学級を安心できる場所にするように共感する。継続して取り組まれることを期待する。
不登校防止				○ 多面的・多角的な観点から、チームを形成して不登校対応にあたる。 ○ 「福岡アクション3」の活用や「生活アンケート」の結果をもとにした教育相談、協働による対応を行う。	○ チーム体制を構築して、不登校対応を行う職員。 【目標】 SCやSSWなどの専門職や外部の社会資源との連携率 100% ○ 担任等を信頼し、安心して相談することができる生徒。 【目標】 生活アンケート 4.0以上(4段階評価)	4 3	○ SSWが常駐しており、またSCも2名がそれぞれ週1回来校するため、連携が取りやすくなっている。 ○ 担任との信頼関係は、保護者アンケートからも読み取れる。 ○ 学級通信も多く発行しており、担任の考え等が生徒に浸透している。	A A	・ 学校の自己評価は適切である。 ・ 不登校対応が組織的に行われていることが理解できる。今行われているように今後も細やかに組織的に取り組まれることをお願いする。
働き方改革	○ 業務の平準化等のタイムマネジメントの工夫や改善を行う。また、週1回定時退校日を設定するとともに、会議の短縮等の工夫を行う。 ○ ワークライフバランスの意識を持って、仕事と休養のメリハリをつけ、バランス良く働くことを目指そうと努めている。	○ 定時退校日を確実に設定し、超過勤務の時間を減らすように、業務の平準化や会議の短縮を図る職員。 【目標】超過勤務45時間以上の職員の割合の減少(昨年比) (再編のため単純には比べられないが、指標とする) ○ ワークライフバランスを意識し、年休の計画的な取得を行う職員。 【目標】 年休取得日数の増加(昨年比) (再編のため単純には比べられないが、指標とする)	2 2	○ 定時退校日を設定し、前黑板にも掲示しており、先生方にも浸透してきている。 △ 業務の平準化ができておらず、今後の課題である。 △ 主日の出張が多く、長期休業中に振替を行うため、年休取得ができない教員がいる。 △ 授業の入替がスムーズにいかず、年休取得をあきらめる職員がいる。 △ 部活動の対外試合が、中体連(総体・新人)以外にも多くあり、出場のための練習・当日と休めない職員がいる。	B B	・ 学校の自己評価は上方修正すべきである。 ・ 十分取組はされていると感じた。数値的な超過勤務削減を中心にみると職員の働きがいや、充実感につながらない場合もあると思う。目標を先生方の働きがいや充実度で見取りをされてもいいのではないかと考える。今後は、先生方個人で時間を生み出していただけよう、タイムマネジメントをより強く意識していただけると有難い。	・ 働き方改革については、教職員のやりがいを奪うことのないようにする。そのために、学校経営参画意識を高めて自己裁量できる部分を増やしていくことで、仕事に対するやりがいを持たせる。 ・ 指標を再考し、時間だけでなく質的な評価も取り入れる。		

◇ 評価について 【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70~90%) 2：もう少し(60~70%) 1：できていない(60%未満)
【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである

令和7年度 学校評価報告書

Table with 7 main columns: 評価計画, 自己評価, 学校関係者評価, 改善計画. Sub-headers include 領域, 評価の観点, 評価指標, 評価, 結果, 評価, コメント, 次年度における改善策(案). Rows cover areas like 教育課程, 進路指導, 生徒指導, 保健管理, 安全管理, 特別支援教育, 組織運営, 研修, 教育目標, 情報提供, 保護者との協働, 教育環境整備.

◇ 評価について
・【自己評価】 4: 目標達成(90%以上) 3: ほぼ達成(70%~90%) 2: もう少し(60%~70%) 1: できていない(60%未満)
・【学校関係者評価】 A: 自己評価は適切である B: 自己評価は上方修正すべきである C: 自己評価は下方修正すべきである